

明

暗

歌集
明暗



橄欖叢書第301篇

平成四年九月二十日印刷
平成四年十月十日発行

定価 二五〇〇円

著者 井出一太郎

384 03 長野県南佐久郡白田町白田六五四

発行者 中沢道保

発行所 株式会社 櫟 (へいちじ)

384 01 長野県佐久市中込二一八一二

印刷所 白田活版株式会社
製本所 株式会社 渋谷文泉閣

橄欖叢書第三〇一篇

歌集
明暗

井出一太郎



浅間山黎明

小山敬三

豊明殿一首

庄亮

とね里来て

玻璃戸あくるや

さうさうと

大内山は

松風のこゑ

歌碑建立記念

『明暗』に寄せて

井出一太郎先生の歌碑がいよいよ十月四日に、貞祥寺に建立されることになりました。歌は、昭和五十三年新年歌会始に先生が召人として詠進された応制歌

母まさは大内山に初春のけふの節會のよし告げ麻之乎
であります。

私ごときが、その「歌碑を建てる会」の会長に推薦され、恥ずかしくもありますが、またこの上もない名誉とも思っています。

先生は旧制の松本高校時代、私の一級下でしたが、昭和二十年三

月、私が東京からこの佐久病院に勤めるようになってからは、白田町の旧家である井出一家には、いろいろな面で大変ご厄介になりました。忘れられないのは、終戦直後、一太郎先生から松田甚次郎の『土に叫ぶ』上下二巻を頂いたことです。その中に宮沢賢治の教えが載っており、「農村に入ったら演説をしてはいけない。劇をやれ」と云っている。あれから約五十年、私はそれを金科玉条のようにこの山の中で、守ってきたつもりです。

今度の歌碑建立に併せ、記念として、先生の新しい歌集の刊行をお願いすることになり、この『明暗』ができました。昭和六十一年、先生が四十年にわたる政治生活に終止符をうたれ、長男正一氏に道を譲られてから、今日までの五百余首がその主体です。何れも自選の作品です。先生が吉植庄亮に師事されており、歌人政治家としても名を知られていることは云うまでもありません。

かつては、石橋、岸の両内閣の農相、また佐藤内閣の郵政相、そして昭和四十九年の三木内閣では官房長官までつとめられましたが、「清潔でウソのない政治家」として、わが国には大変貴重な存在だったことも、衆目の一致するところでしょう。その政治の現実を歌いこんだ歌集『政餘集』『四半世紀』『修羅』『古稀前後』はすでに有名です。

今度のこの『明暗』はまた、最近の引退されてからの先生の日常生活が、生々しく表現されています。何という誠実で温厚なヒューマニストでしょう。最近の六年間は確かに、国際的にも国内的にも大きな歴史的な変動がありました。従って、それに対する感慨が、位人臣を極められた先生だけに、大きくまた深く揺れたのもよく分かります。読み始めたら、巻をおくことが出来ませんでした。ただ失明の定めを負ひてひとりゆく暗く寂しき道はあるべし

には泣かされました。医学の無力さを、医者として恥じずにはいられません。

ここに井出先生歌碑建立に併せて、先生の記念歌集『明暗』の刊行ができますことを、多くの会員とともに喜びたいと思います。

平成四年九月吉日

井出一太郎先生歌碑を建てる会

会長 若月俊一

歌集
明暗
目

次

油彩 小山敬三

色紙 吉植庄亮

「明暗」に寄せて……………若月俊一…7

昭和六十一年 峽村秋意……………25

中国瞥見……………27

胃潰瘍を病みて……………28

宮中参賀……………30

政界を辞するに当り……………33

選挙不出馬……………35

漢方医療……………38

稲草のいろ……………41

昭和六十二年

叙勲のこと	43
憲法回顧	44
生活異変	48
線香花火	49
海の幸到来	52
橋本傳左衛門先生	55
同級生相集いて	57
家郷越年	59
小山敬三画伯	62
身辺拾遺	65
薬餌に親しむ	67

昭和六十三年

ハレー彗星	69
政界戯評	71
蓼科山荘	73
娘入院	75
梅雨前後	77
郷関夏日	79
旧盆前后	81
秋闌けぬ	83
月下美人	86
新年を迎へんとして	89
明暗彷徨	91

政界を退きて		93
歳末ドック入り		95
憂国の人来りて		97
早春賦		99
貞祥禪寺にて		101
早春身辺		102
春雪春雨		104
おふくろの味		107
金婚を迎へて		110
梅雨のあとさき		113
夜空の饗宴		115